

JCNE助成金活用セミナー

「審査項目の考察」

(一財) 非営利組織評価センター 山田泰久
Twitter : @canpan2009
<http://www.facebook.com/yamadamay>

2022年9月Ver.01

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）

一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

寄付月間 推進委員会委員／共同事務局事務局長

一般社団法人全国コミュニティ財団協会 監事

イシス編集学校（松岡正剛氏主宰） 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。

1996年日本財団に入会。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用、寄付をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。

2016年4月、（一財）非営利組織評価センター（JCNE）の設立とともに、業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。

twitter: @canpan2009

Facebook <http://www.facebook.com/yamadamay>

note <https://note.com/yasuhisayamada>

CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>

JCNE・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/>

情報発信のこともやっています。

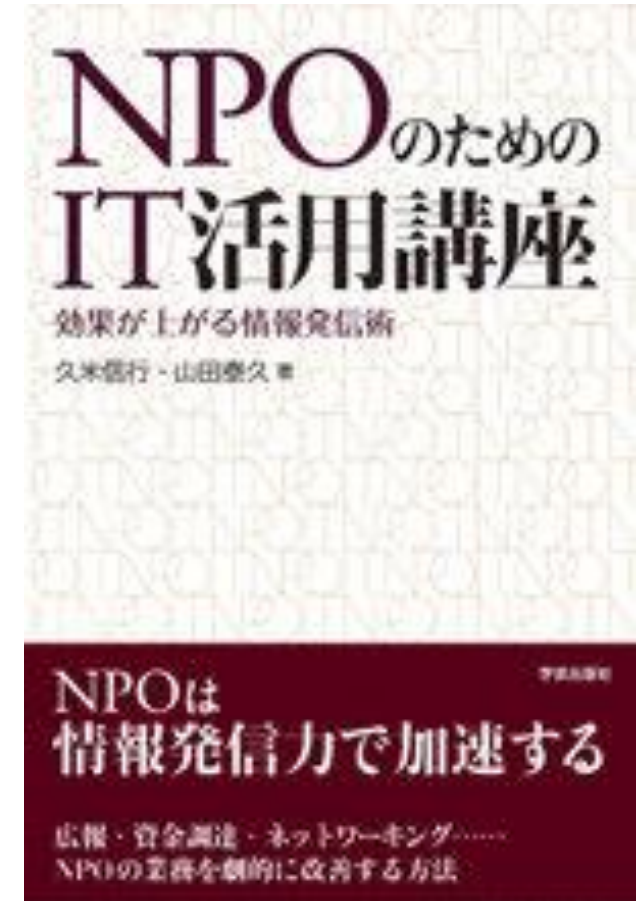
セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社
四六判・224頁・定価 本体1800円＋税



■■ 内容紹介 ■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワーキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



非営利組織評価センター（JCNE）

2016年4月1日、全国の非営利組織の評価を行うことで信頼できる組織の情報を広く社会に発信し、支援環境の充実に寄与するために非営利組織評価センター（JCNE）を設立しました。

チャリティの歴史が長い諸外国では、第三者である評価機関が寄付等を受けて活動する団体の運営状況の評価認証し、結果を公開しています。日本でも同様の非営利組織の評価が必要な時期になりました。

この非営利組織評価センターは民間セクターの手で作りたいという願いから、多くの団体に設立のご支援をいただきました。株式会社をはじめ助成財団、NPO、一般法人といった多様な設立発起人からのご出捐。そして賛同パートナーである助成財団からの応援を得ています。さらに5年後の自立を目指し事業運営には日本財団の助成をいただいています。

組織マネジメントに関する第三者評価



グッドガバナンス認証

JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況を評価しています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/



グッドガバナンス認証

ベーシックガバナンスチェック

JCNEの独自の評価基準に基づき、団体運営の基本についてセルフチェックと提出書類をもとに簡易的に評価をしています。評価結果は「ベーシックガバナンスチェックリスト」で公開され、随時更新されます。継続的に第三者評価を受け、情報開示に積極的な透明性の高い団体として、JCNEは掲載団体への支援を推奨しています。

ベーシック評価基準23項目に基づく簡易的な組織評価です。

<https://jcne.or.jp/evaluation/outline/>

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



欲しい未来へ、 寄付を贈ろう。

一年の終わりに、考えたいのは未来のこと。

もっと楽しい未来。もっと優しい未来。

もっと平和な未来。もっと多様性が認められる未来。

そんな未来を手にするために、あなたの気持ちを寄付にしよう。

寄付は意思、寄付は投資、寄付は応援、寄付は願い。

寄付で未来は変えられるのです。

だから、「Giving December」。

一年の終わりに、未来を考え寄付をする。

そんな習慣を、はじめたいと思います。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、

あなたの想いを託しましょう。

さあ、年の終わりに、新しい「寄付」がはじまります。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間～Giving December～について

寄付月間とは

寄付の受け手側が寄付者に感謝し、また寄付者への報告内容を改善するきっかけとなり、そして多くの人が寄付の大切さと役割について考えることや、寄付に関心をよせ、行動をするきっかけともなる月間を制定する。

推進委員会

委員長 小宮山宏 三菱総研理事長/元東京大学総長

共同事務局長 山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

民間非営利組織、企業、行政、国際機関などで寄付に関連する取り組みをしている全国代表的な機関の代表者が集まり、35名の推進委員会を構成 各法人の有志による共同事務局を設置して、寄付月間の統一ロゴ作成や各方面との連携による全国的周知による啓発活動、イベント開催や賛同パートナー（無料）の拡大などを行います

その他

・社会課題の解決のための寄付の促進が本委員会の設立の背景にあるが、寄付の定義は、寄付者個々人によって違いがあり、多様性を許容する観点から、寄付の定義について委員会としては明確な排他性をもたない。

・本委員会、寄付月間参加は、各主体の自発性に基づくものであり、何ら強制的な要素を含まない。また、特定団体や特定課題への寄付を要請するものではなく、委員会としての政策提言を目指すものではない。



いますぐ体験！



編集力チェック 無料

編集力とはどんなもの？ イシス編集学校の稽古を無料で体験できます。ウェブから申し込むと「お題」がメールで送られてきて、回答を返信すると、師範代から指南コメントが届きます。

▶ <http://es.isis.ne.jp/web.html>



ISISエディットツアー

ブックサロンスペース「本楼」ほかユニークな書棚空間を巡りながら、編集的な体験を楽しむツアーです。映像や座談、ワークショップを交え、アタマもココロもやわらかくする2時間のプログラムで、「編集」のエッセンスを体感。イシス編集学校の編集稽古も体験できます。

● 毎月開催、日程限定。 ● Ticket: 1,500円(税別)

▶ <http://es.isis.ne.jp/edittour.html>



詳しくはイシス編集学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://es.isis.ne.jp>

資料請求・お問合せ・お申込は

イシス編集学校 学林局

front_es@eel.co.jp

よい団体とは、
よい活動とよい情報発信を
している団体である。

助成金も同じ

①NPOセクターの立場で

→より多くのNPOが情報発信することで、
NPOセクター全体の信頼度をアップする

②市民の立場で

→専門的な情報を必要としている人に情報を届ける
→自ら情報発信できない人に代わって発信する

③団体の立場で

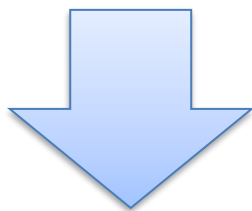
→団体や活動を持続的にするための資源を獲得する

なぜ、NPOは情報発信するのか？

そもそも、NPOやその活動は外から見てわからない存在である。

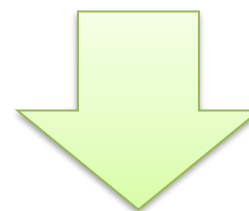
NPOの活動は、現場にいないとわからない。

活動の可視化



活動の中の感動を

活動の価値化



価値にして伝える

本日も話すること

NPOが活用できる助成プログラムは何件くらいあるのでしょうか？

ざっくりとした数字ですが、全国規模のもので300～350件、都道府県域の地域限定のもので30～50件、350～400件程度の助成プログラムがあります。今回は、審査項目の考察です。審査項目は、助成財団スタッフや外部審査員が審査をする時のポイントであったり、基準だったりしています。この審査項目は、一般的なもののからその助成プログラム独自のものまで、いろいろな項目があります。申請事業を考える時、申請書を書く時、この項目が大きなヒントであり、考える際の手すりになります。

審査項目の考察から、助成金を活用するために大事なポイントも一緒に考えていきたいと思います。あわせて、組織評価による団体の基盤強化についてもご案内いたします。

さらに、団体や事業を成長させるための助成金の活用という観点から、審査項目について、お伝えいたします。助成金を活用することで、どのように組織基盤強化につなげていくことができるのかを学ぶことができます。

第1部：助成金に関する講義(40分)

第2部：ベーシックガバナンスチェックのご案内(10分)

第3部：質疑応答

お話しをする前に・・・①

助成金に関する基礎知識は、以下のページの掲載資料参照

<http://blog.canpan.info/c-koza/archive/517>



【基本】初級～上級

1. 助成金の全体像を把握する

助成金の活用2014_セミナー資料_基礎編.pdf

2. 助成金というものがどういうものか、その基本を知る

助成金セミナー基礎編_日本財団荻上.pdf

3. 助成金申請から事業報告まで、助成金に関する一連の流れとやることを学ぶ

助成金活用マニュアル_日本財団荻上.pdf

【応用】中級～上級

4. 助成金を活用するという視点で、あらためて助成金の可能性について学ぶ

助成金の活用2017_セミナー資料.pdf

5. その他、申請から事業実施まで、助成金について参考なると情報を知る。

助成金の活用2014_参考資料.pdf

お話しをする前に・・・②

助成金について学ぶために参考になるサイトや資料など

1. (独法)福利医療機構 WAM助成

<https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/>

助成金に関するノウハウ集や事業評価報告書など参考になる資料が豊富

2. あいちモリコロ基金の調査・評価(基金の運営&助成活動の成果)

https://www.morikorokikin.jp/7_chosa/chosa.html

10年間の助成プログラムの総括報告書が助成金の考え方を学ぶのに最適

3. IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]

ソシオ・マネジメント第4号「成果を最適化するための助成プログラムのコミュニケーション調査」

NPOマネジメント(バックナンバー)

<http://blog.canpan.info/npomanagement/>

ソシオ・マネジメントは助成財団向けの内容だが、助成金をさらに詳しく学びたい方にお薦め。

募集要項の構成

募集要項の構成

- ・説明文
- ・対象事業
- ・審査の視点
- ・条件設定

助成財団から見た募集要項の意味

- ①情報を伝える
- ②ふるいにかける
- ③申請書の精度を上げる
- ④周知啓発をする

募集要項の説明文から読み取ること

- ①社会をどのように捉えているのか？
 - ②何を解決したいのか？
 - ③なぜ助成を行うのか？
- ⇒助成財団の世界観

審査の視点

審査の視点＝申請書を読むためのポイント

事業を見る3つの視点

①社会の視点

社会(地域)状況の認識、ニーズ、緊急性、普遍性/独自性

②事業実施の視点

解決手法、即効性、波及効果

③組織の視点

実施体制、実施能力、影響力

審査の視点は本気度の高低がある

- ・本気度の高いものは申請書の項目に反映されている
- ・申請書の書式を深読みすることも大事

審査の視点の先駆性について、既にほかの団体がやっている事業でも、その地域で今までにないものであれば、先駆性があるともいえる。

対象にした助成プログラム

10助成機関 16助成プログラム

日本財団 2022年度通常募集

トヨタ財団国内助成

- ・日本における自治型社会の一層の推進に寄与するシステムの創出と人材の育成
- ・地域における自治を推進するための基盤づくり

三菱財団 2022年度 福祉事業並びに研究助成

地球環境基金 2022年度地球環境基金助成

麒麟福祉財団

- ・令和4年度「麒麟・地域のちから応援事業」
- ・令和4年度「麒麟・福祉のちから開拓事業」

SOMPO福祉財団

- ・2022年度 社会福祉事業 NPO基盤強化資金助成
- ・2022年社会福祉事業 NPO基盤強化資金助成「住民参加型福祉活動資金助成」

日本郵便 2022 年度日本郵便年賀寄付金

ベネッセこども基金

- ・経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成
- ・重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

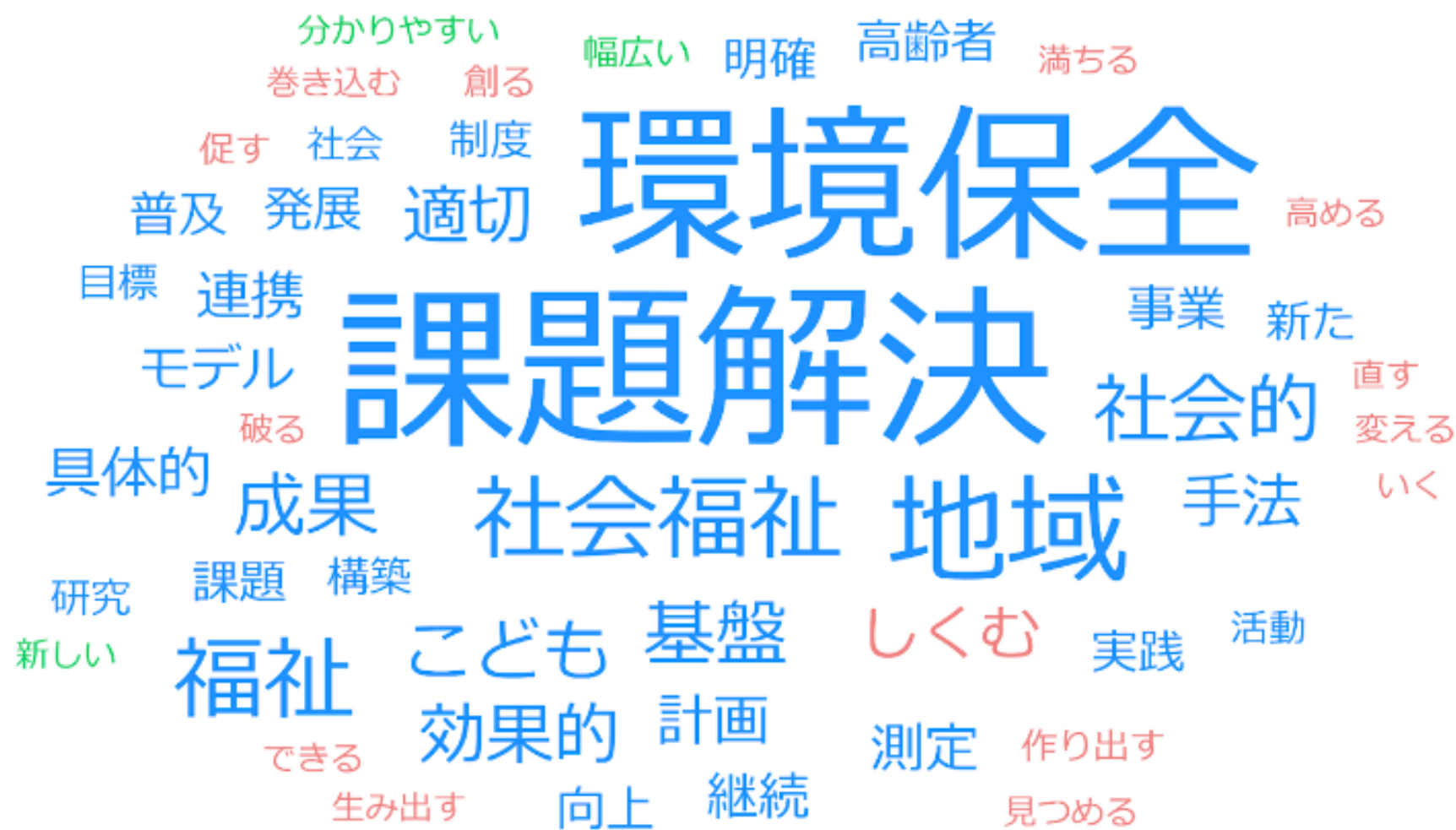
モバイル・コミュニケーション・ファンド

- ・子どもの健全な育成を支援する活動への助成
- ・経済的困難を抱える子どもを支援する活動への助成

ヤマト福祉財団

- ・障がい者給料増額支援助成金
- ・障がい者福祉助成金

ワードクラウド



出現回数上位5つのワード

	ワード	出現回数
1	地域	25
2	課題	13
3	計画	12
4	モデル	12
5	成果	10

【地域】出現25回

- 地域における自治の基盤づくり
- 地域資源や人と人の関係性を見つめ直し
- 地域内の主体性や参加の仕組みが育っていく基盤づくり
- 地域での実践
- 他地域への普及や応用
- 他地域や他の活動分野への発展・普及
- “地域性・個別性”が高く
- 地域からの環境保全のボトムアップの充実
- 地域に根ざした活動
- 地域に根ざすことなどを目指し
- 被災地域における環境保全
- 地域の復興に貢献
- 地域循環共生圏構築
- 地域のちから応援
- 地域やコミュニティで生活する一員として
- 地域における障害児・者、高齢者、子どもなどの福祉向上
- 地域やコミュニティの子ども・子育て世代を元気にする
- 地域やコミュニティの高齢者を元気にする
- 地域やコミュニティの障害のある人や困りごとを抱える人・支える人を元気にする
- 地域やコミュニティの活性化
- 地域やコミュニティを元気にする
- 地域社会福祉分野のボランティア活動
- 地域社会の福祉向上
- 地域課題の解決に大きく貢献する
- 地域や全国の他の団体に波及
- 地域における他の団体、行政、企業などと連携
- 地域における福祉人材の育成
- 地域においてボランティアや寄付者など幅広いサポート
- 地域における高齢者・障害者・子ども
- 地域における高齢者、障害者、子ども等に関する複合的な生活課題
- 地域住民が主体となって
- 地域や全国の他の団体に波及
- 海外の地域からの留学生
- 地域にまたがって広範 かつ大規模に生ずる環境の変化
- 地域ごとの課題に沿った
- 活動地域における子どもの状況や課題が十分に把握
- 日本全国の地域において
- 学び支援の空白地域での活動
- 地域の課題把握が具体的
- 活動対象地域における特有の現状
- 他地域への水平展開

【地域】 出現25回

- ・ 地域における自治の基盤づくり
- ・ 地域資源や人と人の関係性を見つめ直し
- ・ 地域内の主体性や参加の仕組みが育っていく基盤づくり
- ・ 地域での実践
- ・ 他地域への普及や応用
- ・ 他地域や他の活動分野への発展・普及
- ・ “地域性・個別性”が高く
- ・ 地域からの環境保全のボトムアップの充実
- ・ 地域に根ざした活動
- ・ 地域に根ざすことなどを目指し
- ・ 被災地域における環境保全
- ・ 地域の復興に貢献
- ・ 地域循環共生圏構築
- ・ 地域のちから応援
- ・ 地域やコミュニティで生活する一員として
- ・ 地域における障害児・者、高齢者、子どもなどの福祉向上
- ・ 地域やコミュニティの子ども・子育て世代を元気にする
- ・ 地域やコミュニティの高齢者を元気にする
- ・ 地域やコミュニティの障害のある人や困りごとを抱える人・支える人を元気にする
- ・ 地域やコミュニティの活性化

- ・ 地域やコミュニティを元気にする
- ・ 地域社会福祉分野のボランティア活動
- ・ 地域社会の福祉向上
- ・ 地域課題の解決に大きく貢献する
- ・ 地域や全国の他の団体に波及
- ・ 地域における他の団体、行政、企業などと連携
- ・ 地域における福祉人材の育成
- ・ 地域（自治体）に求められるのは、地域資源・人材・自治体を生かし、地域の活力を取り戻す活動。またその活動が、他の地域へ波及するようなモデル性があること。
- ・ 海外（自治体）との連携
- ・ 地域課題の解決に貢献
- ・ 活動地域における子どもの状況や課題が十分に把握
- ・ 日本全国の地域において
- ・ 学び支援の空白地域での活動
- ・ 地域の課題把握が具体的
- ・ 活動対象地域における特有の現状
- ・ 他地域への水平展開

【課題】 出現13回

- 国際的課題に的確に対処
- 社会課題が明確
- 社会課題が明確
- 一気通貫で課題解決の糸口を探る取り組み
- 課題を多面的に捉える
- 課題解決能力等に磨きをかけ
- 特定の環境課題解決
- 環境課題解決
- 社会課題・問題を直接解決するため
- 地域課題の解決
- 複合的な生活課題
- 社会的課題
- 地域ごとの課題に沿った
- 課題解決に向けた問題提起
- 同じ課題に取り組む
- 課題の明確性
- 課題解決
- 社会課題
- 課題解決の手法や計画が適切。
- 課題を抱える
- 課題把握が具体的
- 解決したい課題と解決方法(実行項目、費用、スケジュール)の一貫性
- 課題の理解
- 課題に対する認識は的確

課題の把握と理解、妥当性と明確化が求められています

【計画】出現12回

- 計画性
- 事業計画・資金計画が適正かつ合理的
- 広報計画
- 計画段階で成果の測定指標を設け
- 具体的計画
- 目標に沿って活動を計画・実施し、成果をあげ
- 活動計画が具体的かつ効果的
- 展望をもち計画に取り入れ、活動を実施
- 事業計画が明確化
- 計画の適切性・実現性
- 一貫性のある計画
- 計画に応じ予算の使途
- 計画が適切
- 具体的な計画性
- 計画と整合

策定計画には、具体的であること、明確であること、遂行可能な実現性があることが求められます。

【モデル】出現12回

- モデルの構築
- 他のモデルとなりえるか
- 他のモデルとなることが期待できる
- 新たなモデル
- モデル化
- 地域や全国の他の団体に波及し、モデルとなるか
- 良い事例をモデル化して全国へ展開
- モデルとなること
- モデル性
- 事業にモデル性があり
- モデル性があり
- モデルとなる効果的な事業

事業を実施する地域にとどまらず、他の地域や団体の参考・模範となることが求められます。

【成果】出現10回

- 成果の波及効果
- 成果測定
- 奥行き感のある成果
- 成果をあげ
- 成果主義型
- アウトカム(成果)志向
- 成果の向上のための評価制度
- 事業の成果目標が定量的・定性的に明確化
- 成果目標
- 成果の測定手法の設定
- 成果目標がそれぞれ明確に設定
- の成果(アウトカム)を可能な限り定量的に測定するための適切な手法の提案

アウトカムを重視し、目標とその目標が達成できたかの評価(測定)を行うことが求められています。

助成金とは・・・

樹木は育成することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはあまりあるほどの
養分を吸収する。

樹木は、この溢れんばかりのの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々としたみずからの運動に使用する。

このように自然は、その初源からの生命の
無限の展開にむけての秩序を奏でている。

物質としての束縛を少しずつ断ちきり、
やがて自らの姿を自由に変えていくのである。

**“デンマーク王子アウグステンブルク公にあてた
美学的なことに関する書簡第27号より一部を抜粋”
フリードリヒ・フォン・シラー**



横浜／ランドマークタワー